

令和5年度第1回大阪府立万国博覧会記念公園指定管理者評価委員会
議事概要

1. 日 時 令和5年7月28日（金曜日）午前10時00分から11時30分まで
2. 場 所 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 第2応接室
3. 出席者 加我委員長（オンライン）、清水委員、伊藤委員、玄野委員（オンライン）、
権野委員、田中委員、藤本委員（オンライン）

4. 議題

- (1) 令和5年度 評価委員会の進め方について
- (2) 公園の運営管理について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

5. 主な議事内容

(1) 令和5年度 評価委員会の進め方について

（事務局より「資料4 大阪府立万国博覧会記念公園指定管理者評価委員会の進め方」、
「資料5 評価項目対応表」に基づいて説明。）

事務局）

年度評価について、指定管理者が12月末実績に基づき自己評価を行い、その内容に基づき、大阪府が評価票の作成を行っている。大阪府が作成した評価票については、評価委員会において点検を実施し、指摘・提言を行っていただいている。年度評価票の指定管理者の自己評価については、12月末実績としての記載となるが、評価委員会開催後から3月31日までの実績については、指定管理者から別途提出される事業報告書をもって確認したいと考える。

委員）

12月末時点での実績に基づき指定管理者が自己評価を作成し、最終的な大阪府の評価については、年度末の実績に基づいて行うということだが、評価委員会開催以後から3月31日までの実績により、評価内容が変更となることは、想定内であると考えていいのか。

事務局）

年度評価については、評価委員会の意見や提言を踏まえたうえで、大阪府としての評価を行う枠組みとなっており、評価委員会での意見及び年度末である3月31日までの実績を鑑みて結果としてその評価内容が変わることは制度上想定されている。

委員）

承知した。

(2) 令和5年度 公園の運営管理について

○来園者の状況について

(事務局より「資料6 来園者の状況について」に基づいて説明。)

○アンケートについて

(事務局より「資料7 アンケートについて」に基づいて説明。)

○令和5年度事業実施計画

(事務局より「資料8 令和5年度事業実施計画書(抜粋)」に基づいて説明。)

委員)

アンケートについて、年間約1,300人に対して実施しているが、年間約230万人の来園者がいる公園として、数は適正なのか、数が少ないと思う。またインバウンドを目指すのであれば個別のアンケートを行う必要もあるかと思う。アンケートの方法などについて、変更するといった協議はなされているのか。

事務局)

現在、指定管理者からの提案を受けており、アンケートの方法などについて、協議を行っている。対面で実施しているアンケートについては、来園者の声を直接聴くことができる重要な方法であると認識しており、他にやり方があるかどうかといった観点から協議をしている。

委員)

ウェブを活用すると数をもっと稼げるのではないかということと、対面での実施については、継続する必要があると思っている。そのうえで、少し工夫していただく必要があるのではないかと考える。調査対象者について、年齢層ごとに調査を行う等を行い、表面的な聴取ではなく少し踏み込んだ意見を聴取できるような方法をとっていただきたいと思う。

またアンケートの調査結果については、毎回トイレについての意見が出ている。9頁に記載の「汚い・清掃できていない」が最も多い回答となっているが、清掃についてはいくら予算がないとはいえ、やれば対応できる内容ではないか。トイレを清潔に保つことは重要だと思う。

事務局)

トイレの清掃について補足をすると、指定管理者においては通常の清掃と合わせて繁忙期には清掃の頻度を増やすなどの取り組みを行っていただいている。非常に広い公園のため、全てについて行き届いていない状態であることはご指摘のとおりかと思うので、指定管理者ともお話をさせていただく。

委員)

改修されたトイレがどこにあるかといった情報が行き届いていないと思う。可能であればトイレの混み具合なども含めて、情報を利用者へ伝えることが大事かと思う。

事務局)

トイレの改修状況などをどう発信するかについて、明確な案が出来上がっている状況ではないが、指定管理者において園内マップの刷新に取り組みされており、そういった部分でも配慮したような案内ができないか検討していく。

委員)

施設において、トイレは非常に大切だと思う。改修などのハード面、その情報を伝えるといったようなソフト面の両面について設置者及び指定管理者の双方の取り組みで、行っていただきたい。

委員)

事業実施計画書1頁に「地元住民に加え、国内全体の観光客、インバウンド需要も対象とした誘客を促進」と書かれているが、観光客やインバウンドを増やす誘客計画は策定されているのか。

事務局)

具体的な計画については、指定管理者からヒアリングできていないため、確認でき次第情報提供する。

委員)

事業実施計画書4頁に「今年度は日本庭園の和風カフェへの改装について検討を行う。」とされているが、実際に改装のめどは立っているのか。

事務局)

ご指摘いただいた日本庭園の中央休憩所の和風カフェへの改装を含め、投資は、指定管理者選定に際して重要な評価項目である。現在検討中となっているが、大阪府から指定管理者へ今後の投資のあり方や出店計画も含め、どういった計画を立てるかについて協議をするように働きかけを続けているところ。具体的なものが出来上がってくれば情報提供を行いたい。

委員)

万博記念公園の情報源について、アンケート6頁に記載があるが、ホームページを見られている方が全体で58.7%となっている。その一方で12頁にて、ホームページやイベントの情報が分かりづらいといった指摘が上がっている。ホームページの内容や更新頻度等について、こういった意見を反映していただければ。

委員)

アンケートについては、スポーツ施設の利用者は対象に入っていないか。

事務局)

お示ししているアンケートは、自然文化園の中央口で調査を行っていることから、おそらくスポーツ施設の利用者の方はほとんど含まれていないと思う。

委員)

万博公園は、地域の公園といった役割を兼ね備えていると思う。スポーツ施設の利用者促進についても計画をもう少し立てていただけたらと思う。

事務局)

東地区と南地区のスポーツ施設が集中しているところについては、自主事業も含めて売店を出店するといった計画を聞いている。環境整備の観点からスポーツ地区の充実については、取り組んでいただいている。引き続きより良いスポーツ施設の運営になるよう努めたい。

委員)

事業実施計画書の記載方法について、指摘したい。「～予定」「～の検討」といった表現が多く、計画書の中身が薄く感じている。検討をしたうえで、実施計画を立てるのが筋だと思うので、今後は具体的な内容を記載した事業実施計画書を出していただきたい。

委員)

事業実施計画書の裏付けとなる収支計画書が提出されていないので、評価委員会で何を議論すればいいのか。先ほど、本日の午後に提出されると説明があったが、午前中に評価委員会があると分かっている、午後に出しますよというのはあり得ない。わざと審議をさせないようにしているのか。付属機関条例第2条に「業務の実施状況等に関する評価について調査して審議させるため」とされているが、その目的を果たせてもらえていない。大阪府の援助がないために収支計画書を出さない、審議させないというのは本末転倒。

今年度第2回評価委員会で審議を予定されている中間総括について、どういった内容で行うかについて検討する必要がある。

事業実施計画書に記載はないが、2025 万博との連携は行っていると思うので、記載があってもいいのかと思う。

委員)

中間総括については、設置者である大阪府と指定管理者が双方で協議をしていただき、その客観性についてこの評価委員会で審議することになると思う。

樹木管理について、クビアカツヤカミキリは、吹田市・豊中市・茨木市においてはまだ発生したと聞いていないが、万博公園の状況はいかがか。

事務局)

現時点においては、個別の情報は聞いていないが、指定管理者へも確認を行うこととする。

委員)

地域の状況なども情報収集のうえ、拡大しないような予防措置も含めて対策の検討を願いたい。

(3) 今後のスケジュールについて

(事務局より「資料9 今後のスケジュールについて」に基づいて説明。)

委員)

今期は中間総括の時期となる。内容について、事前に評価委員と事務局と議論をして評価委員会に諮りたいと思う。次回評価委員会の前に相談があるかと思うが、対応をお願いしたい。

委員)

中間総括の具体的な内容は決まっているのか。そもそも中間総括とは、どのような趣旨で行われるものか。

事務局)

具体的な内容については、検討中ではあるが、当初公募の際に提出があった計画が計画のとおり実現されているかどうか、指定管理業務の実施状況について総括し、検証する機会を設けるといのが中間総括の趣旨となっている。

委員)

当初の計画を達成できていないことは、明らかであり、過去の5年間を振り返る意味があるのか。令和4年度にコロナ禍前の来園者数に戻ったことから、スタート地点に戻ったとのことで、今後の5年間について検討するべきではないか。

委員)

今後の5年間をどうするのかについて検討することは大切かと思う。ただ現時点で全くのゼロベースで新たに5年間の計画を考えていくというのではなく、当初の10年間の計画を踏まえて、今後の5年間について考えていくべきではないか。

委員)

中間総括について、本来であれば当初の事業計画をベースに行うことであるかと思うが、社会情勢の変化もあり、今後の5年間を見据えてどういった内容にするかについては、事務局においても中間総括は初めての事例ということもあるので、やり方については評価委員会からもご提案させていただきながら、まとめていただきたいと思います。

今回は秋頃に評価委員会を開催予定。本日は、ありがとうございました。

以上